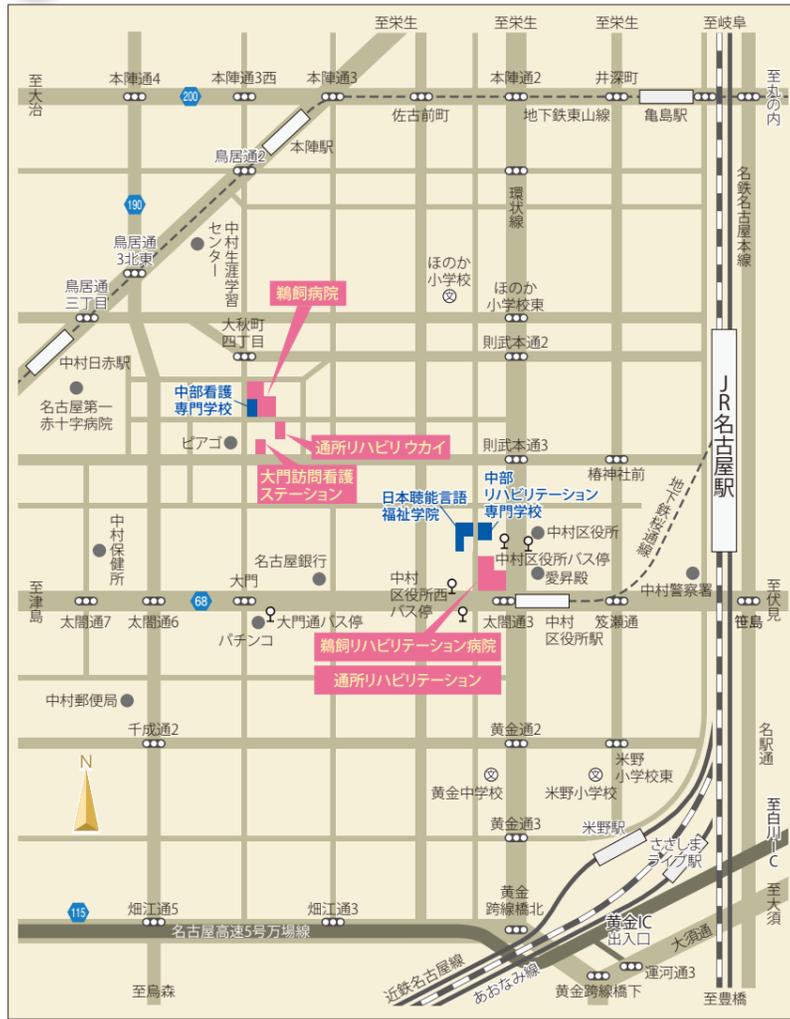


ご案内図



交通アクセスのご案内

- 地下鉄/桜通線「中村区役所」①出口より……………徒歩約 1分
- 市バス・名鉄バス/「中村区役所」下車……………徒歩約 1分
- JR名古屋駅太閤通口より……………車で約 5分
- 名古屋高速道路「黄金」ICより北へ……………車で約 5分



当院は、医療機能評価認定病院です。

時代のニーズに応える
珪山会グループ

鵜飼 病院
TEL 052-461-3131
FAX 052-461-3136
名古屋市 中村区 寿町30

鵜飼リハビリテーション病院
TEL 052-461-3132
FAX 052-461-3231
名古屋市 中村区 太閤通 4-1

通所リハビリテーション
TEL 052-461-3237
FAX 052-461-3238
名古屋市 中村区 太閤通 4-1

通所リハビリウカイ
TEL 052-461-9195
FAX 052-461-3107
名古屋市 中村区 寿町 6-1

大門訪問看護ステーション
TEL 052-471-2533
FAX 052-485-9702
名古屋市 中村区 大門町30

中部リハビリテーション専門学校
TEL 052-461-1677
FAX 052-471-2333
名古屋市 中村区 若宮町 2-2
<http://www.chureha.kzan.jp/>

中部看護専門学校
TEL 052-461-3133
FAX 052-483-0873
名古屋市 中村区 寿町29
<http://kango.kzan.jp/>

日本聴能言語福祉学院
TEL 052-482-8788
FAX 052-471-8703
名古屋市 中村区 若宮町 2-14
<http://ncg.kzan.jp/>

鵜飼リハビリテーション病院 ハートフル情報誌

ReHappy!

リハッピー

Vol.75

発行人/鵜飼泰光
発行/鵜飼リハビリテーション病院広報委員会
名古屋市 中村区 太閤通 4-1
<http://www.ukaireha.kzan.jp/>
編集/鵜飼リハビリテーション病院広報委員会
編集グループ
編集協力/プロジェクトリンク事務局
発行/令和3年4月1日

〈特集〉

「娘とバーจินロードを歩きたい」
その夢を叶えるために。



「娘とバージンロードを歩きたい」 その夢を叶えるために。

リハビリテーションの最終的な目標は、患者さん一人ひとりの「こんなふうに暮らしたい」という思いを実現すること。鶴飼リハビリテーション病院では担当のスタッフが、患者さんやご家族の思いを把握し、それを実現するために情熱を傾けている。ReHappy!では、今号から数回に分けて、それぞれの専門職が患者さんの思いを叶えるためにどんなアプローチをしているのか、ケーススタディを紹介していきたい。



3階病棟 副主任
理学療法士 牧 芳昭

入院から1カ月後に 娘さんの結婚式の予定。

今回紹介するのは、理学療法士の牧 芳昭（3階病棟副主任）の心に鮮明に残る物語である。

今から6年ほど前、牧はある患者さん（Aさん）を担当することになった。Aさんは50代女性で、年頃の娘さんと暮らしていた。しかし、ある日突然、脳梗塞に襲われる。幸い、一命は取りとめたものの、右片麻痺の後遺

症が残った。急性期病院から鶴飼リハビリテーション病院へ転院してきたときはまだ歩くことができず、車いすに乗っていた。

事前に、主治医や医療ソーシャルワーカー（MSW）から基本的な情報を得ていた牧は、Aさんのベッドサイドを訪問。身体能力や障害を注意深く評価していった。Aさんは右側の上下肢に運動麻痺と感覚障害がある。座位は安定しているが、体重移動はまだ難しい。立ち上がろうとするとふらつきが生じ、体力もかなり低下していた。

また、認知機能はしっかりしていたが、失語症があり、コミュニケーションには配慮が必要であることもわかった。

これは、しっかり歩き方から学習していかないといけない。そう考えた牧は「まずは、安全に立ち上がれるように。それから、ゆっくり歩行訓練をしていきましょう」と、話しかけた。つき添いの娘さんはそのとき、言い淀んでいたことを思いきって口にした。「どれくらいで歩けるようになるのでしょうか。実は1カ月後、結婚することが決まっています。できれば、母と一緒にバージンロードを歩きたいのです」。



わずか1カ月間で 装具を用いた杖歩行をめざす。

詳しく話を聞くと、Aさんはシングルマザーとして娘さんを育て上げた。その苦楽の日々の集大成として、バージンロードと一緒に歩くことをとても楽しみにしてきたのだという。

娘さんの話に心を打たれた牧は「これはもう、やるしかない」と心のなかで覚悟を決めた。しかし、安請け合いをするわけにはいかない。チーム（※）に持ち帰って、他職種のメンバーに相談することにした。「おそらく1カ月後、Aさんが独りで歩くのは無理だと思います。ただ、装具と杖を用いて、さらに娘さんが支えて歩くのであれば、安全に歩ける可能性があります」。この提案に、チームメンバーも大いに賛同した。作業療法士、言語聴覚士と一緒に、Aさんが結婚式に参列することを短期目標に据え、日常生活動作や言葉を取り戻すためのトレーニングメニューを組んだ。

翌日から、チームによるリハビリテーションがスタートした。理学療法士である牧は、最初に立ち上がる訓練、続いて装具をつけて歩く訓練に進んだ。装具は麻痺側の膝と足首を固定させるもので、装着することで麻痺側



に体重をかけることができるようになる。毎日休むことなく、Aさんは慣れない装具をつけての歩行訓練を続けた。病棟の看護師も積極的に協力し、トレーニングの時間以外に、少しでも長く歩けるようAさんの自主練習につき添った。

さらに、娘さんも仕事が終わると毎日のように病院に立ち寄り、Aさんと一緒に歩く練習に取り組んだ。バー

ジンロードの歩き方は、普通の歩き方とは少し異なる。まず、ゆっくりと右足を前に出し、左足を右足に揃える、次に左足を出し、右足を左足に揃える、という動作を繰り返す。



返す。Aさんは娘さんの腕と杖を頼りに、少しずつバージンロードの歩き方を学んでいった。しかし、結婚式まで2週間、1週間と時間は迫っていく。「この調子で、果たして長いバージンロードを歩き切れるだろうか」。牧は内心、焦りを感じたが、Aさんにはそれが伝わらないように努めた。無理して転倒したりすることのないよう、いつも穏やかな雰囲気でも訓練を続けた。

こうして1カ月にわたる訓練が終わり、いよいよ結婚式当日を迎えた。Aさんは一時退院となり、ご親族と一緒に結婚式場へ。そして、いよいよ挙式の開始。Aさんは娘さんとともに聖歌の響く挙式会場に入場し、母娘の思い出を噛み締めながら、バージンロードを一步一步つ積み、無事に娘さんの手を花婿に渡すことができた。挙式から戻った娘さんは、あふれんばかりの喜びを牧に伝えた。「素晴らしい結婚式になりました。本当にありがとうございました」。娘さんの言葉にうなずきながら、Aさんはやり遂げた安堵感と心地いい疲労感の入り交じった晴れやかな表情を見せた。

※医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、医療ソーシャルワーカーから構成された、Aさんの担当チーム。

目的に合わせた 身体機能の改善をめざす。

牧が紹介した事例は、鶴飼リハビリテーション病院の〈患者さん一人ひとりに寄り添い、一緒にゴールをめざす〉という姿勢を見事に具現化したものといえるだろう。

牧はこの事例から得た学びについて、次のように語る。「これは、私が理学療法士になって3年目くらいの出来事でしたが、忘れることのできない経験です。精一杯の情熱を注ぎ、患者さんやご家族の思いを叶えることができて、改めてこの仕事を選んでよかったと思いました」。

では、この事例から見てくる理学療法士の専門性とは何だろうか。珪山会リハビリテーション部副部長の早川佳伸（理学療法士）に話を聞いた。「理学療法士の専門性は、体の障害をよく理解し、Aさんの歩行のように、日常生活の基盤となる基本動作や体力を回復させることにあります。しかも、単に回復させればよいというもの



珪山会リハビリテーション部副部長
早川佳伸

ではありません。患者さんの思いを第一に、どのように回復させるかを考えることが大切です」。たとえば、Aさんのように晴れの舞台で歩くのであれば、少しでもきれいな姿勢で歩けるようにサポートしなくてはならない。また、長い距離を

歩けるようになりたい、というのであれば、歩行訓練と同時に筋力強化のトレーニングも必要となる。「私が教育のなかで、若い職員によく言うのは、最初に患者さんの思いをしっかり理解しよう、ということです。患者さん一人ひとりやりたいことも違うし、なりたい自分像も異なります。バックグラウンドも含めて患者さんのことをよく理解し、リハビリテーションを通じてどんな能力を再獲得したいのか、というゴールを共有することが大事です」と早川は語る。



患者さん一人ひとりの 思いに寄り添って、これからも。



バージンロードの夢を叶えてから6年、今、牧はどんな気持ちで日々の仕事に携わっているだろうか。「あのときの成功体験があるから、今も患者さんの思いに応えることに力を注いでいます。たとえば、歩けるようになりたい、という希望を聞くだけでなく、歩けるようになって、その先にどんな夢を描いていらっしゃるのかを聞き出すよう努めています」と、牧は話し、次のように続けた。「ただ、すべての患者さんが思い通りの状態を取り戻せるわけではありません。そういうとき、患者さん一人ではゴールを定めることは難しいものです。その方がその方らしい目標やゴールを設定できるよう支援していくことも、私たちの役割だと考えています」。

ゴールを設定した後は、その実現に向け、認知機能や栄養状態なども踏まえたトレーニングメニューを考えるのだという。「スムーズに動作ができるようになるには、単に運動機能を高めればよいというものではありません。

体力の維持・向上はもちろん、体を動かすためには認知機能を改善することも重要です。理学療法士である以上、そうした患者さんの基本的動作能力を広く意識し、一人ひとりに最適なりハビリテーションをめざしていきたいですね」。

牧はこれからも、理学療法という専門的な領域で、患者さんに寄り添い、その思いを叶えていこうとしている。

For the Best Rehabilitation

Topic 1

最新技術を取り入れ、使いこなす。

鶴飼リハビリテーション病院では、患者さんに最適なりハビリテーションを提供するため、常に最新の理学療法にアンテナを張り、有用なものは積極的に取り入れている。その1つが、リハビリテーション支援ロボット「ウェルウォーク」だ。このロボットは、下肢麻痺のリハビリテーション支援を目的とした機器。麻痺している足にパーツを装着し、その力を補うことで歩行をサポートする。転倒を防止する装置もついているので、通常であれば歩行訓練が難しい重症患者さんであっても、安全に訓練を行うことができる。

また、まだ導入されていないが、最近ではVR（バーチャルリ



アリティ)を使った理学療法にも注目しているという。これは、VRゴーグルを装着して仮想空間を見ながら訓練を行うもの。体の傾きを整えたり、全身のバランスを補正したりする効果が期待されている。

こうした機器を取り入れる上で重要なのは「道具の一つとして、活用方法を見極めること」と、早川は言う。「ロボットなどを使ったトレーニングは、今後スタンダードになっていくと思います。でも、それらはあくまでも道具にすぎません。どんな患者さんに対し、どのような効果があるのか、しっかり見極めながら、上手に使いこなすことが大切です」。

Topic 2

基礎教育に力を注ぎ、理学療法の質を高める。

鶴飼リハビリテーション病院には、多くの理学療法士が所属している。特徴的なのは、1年目、2年目という若手スタッフが非常に多いことだ。そのため同院では、知識や技術を磨く基礎教育(3年間)に力を注いでいる。そこで用いるテキストは、自分たちで作ったオリジナル教本。同院での理学療法の標準的な手順を示した教本に基づいて、各人への技術指導を行っている。さらに、技術の習得度を確認するために、年2回、模擬患者さんを使った実技テストを実施。合格しないと、次の段階に上がれない仕組みを構築している。4年目以降は個々の主体性を重視した教育を継続。集合事例研修などを通じて、知識と技術を研鑽していく。

また、多施設連携の研修の機会も豊富に用意されている。珪山会には、同院のほか、鶴飼病院、老人保健施設、訪問看護ステーション、通所リハの施設がある。それらの施設に所属する理学療法士が定期的に集まって、

症例検討会などを開催。多様な症例を共有することで、より専門性を高めている。また、幅広い視野を養うため、施設間の異動も積極的に行っている。理学療法士たちは、回復期から維持期(生活期)に至る、さまざまなステージを学び、体験することにより、ひと回りもふた回りも大きく成長していく。



Support Party!



鵜飼病院

地域に密着した病院として、
患者さん・ご家族を支えます。

当院は、地域に密着した病院として近隣の病院や診療所と連携を取り、患者さんにとってより快適な入院診療・外来診療を提供できるよう努めています。急に体調が悪くなられた方や、救急車の受け入れにも対応しており、整形外科手術も行っています。

また、患者さん、ご家族の「自宅で生活を」という気持ちにお応えできるよう、リハビリテーションにも力を入れています。法人内外の居宅介護支援事業所や訪問看護ステーション等の介護保険サービス事業所と協力し、患者さんのご自宅での生活を支えます。



施設概要

リハビリテーションを中心に医療・福祉活動を展開しています。最先端設備と人に優しい環境を整え、患者さん一人ひとりを支えます。

診療科目：内科・神経内科・外科・消化器外科・整形外科・リハビリテーション科・放射線科

病床数：120床（一般病床30、地域包括ケア病床30、療養型病床60）

外来受付時間

月～金曜日 9:00～12:00 / 15:30～18:00

土曜日 9:00～12:00

休診日 日・祝

※在宅医療サービス、介護保険サービスも行っています。

通所リハビリ ウカイ

■通所リハビリテーション（1～2時間）・（3～4時間）

病院でのリハビリと
同等のリハビリの提供に努めています。

介護保険で行う通所リハビリテーション施設（デイケア）です。利用者さんの状態やニーズに合わせ、医師やリハビリ専門スタッフがサービスを提供します。理学療法士・作業療法士・言語聴覚士を配置し、病院でのリハビリ（医療保険）が終了となった場合でも同等のリハビリを提供できるよう努めています。



日常生活での動作獲得やコミュニケーション能力の向上等をめざし、身体機能や筋力の維持・向上がはかれるようプログラムを立案。個別リハビリ、機器での筋力強化やマッサージ、物理療法の低周波やホットパック等を行います。

施設概要

体力や基本動作能力の向上をはかりたい方を対象に、20～40分の個別訓練と1～3時間程度の自主訓練を行います。

対象：要介護・要支援認定の方
ご利用日：月～金曜日
（祝祭日、年末年始を除く）

ご利用時間：午前 9:00～12:30
午後 13:30～17:00

サービス内容

○3つのコースと利用者に応じた個別リハビリテーション

○健康状態の確認（メディカルチェック）など
※食事・入浴・送迎はありません。

鵜飼リハビリテーション病院

■通所リハビリテーション（1～2時間）

利用者さんの状態に合わせ、
専門スタッフがリハビリや運動を実施します。



介護保険で行う通所リハビリテーション施設（デイケア）で、1時間30分の短時間型通所リハビリを提供しています。病院を退院した後、安心してご自宅での生活が送れるよう、専門スタッフ（理学療法士）が利用者さんの状態やニーズに合わせ、個別リハビリ（20～40分）や機械を使っでの運動（40～50分）を実施します。

また、平成24年から、要介護者の方に限りお宅への訪問を始めました。実際の生活現場で情報収集を行うことで、解決が必要な課題を明確にし、より充実したリハビリを提供できるよう、スタッフ一丸となりサポートしています。

施設概要

利用者さんの状態に合わせ、20～40分の個別訓練と1時間程度の自主訓練で体力や基本動作能力の維持・向上をはかります。

対象：要介護・要支援認定の方
ご利用日：月・木・火・金・水・土
（祝祭日を含む）

ご利用時間：午前 9:00～10:30 / 10:30～12:00
午後 13:00～14:30 / 14:30～16:00

サービス内容

○筋力増強訓練や関節運動など
○食事・排泄・更衣・入浴など日常生活動作
○住宅環境の整備
○ホームプログラムの指導 など

※食事・入浴・送迎はありません。

大門訪問看護ステーション

短期間の利用も可能。
退院後の不安を取り除きます。

「退院後すぐに体調が悪くならないだろうか」「自宅でどんな運動をすればいいのだろうか」「トイレやお風呂の介助がうまくできるだろうか」など、退院後の不安はどなたもお持ちだと思います。

当ステーションでは、退院前のリハビリ見学等を通して入院スタッフからの情報収集を実施しており、退院後、看護師やリハビリスタッフ（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）が週1～2回程度訪問して、ご本人の状態や環境に合わせた指導・援助をしています。退院後から生活が落ち着くまでの短期間利用も可能です。



施設概要

看護師、リハビリスタッフがご自宅に訪問し、利用者さんやご家族が安全・安心に暮らせるよう、在宅生活を支援します。

営業日時：月～金曜日 9:00～18:00
（祝祭日、年末年始を除く）

サービス提供地域：中村区・西区・中川区

サービス内容

○健康状態・病状観察
○日常生活の支援
○医療処置・カテーテル管理支援
○在宅リハビリテーション
○看護・介護・住宅改修・福祉用具の助言、相談 など

※ご利用にあたっては医師の指示書が必要です。ステーションにお問い合わせいただくか、ケアマネージャーにご相談ください。
※看護師の24時間対応。